

# Dominion SX クイック セットアップ ガイド

### パッケージ内容

DSX のパッケージに同梱されているものを確認します。パッケージには、次のものが入っています。

- DSX 本体
- ラック マウント キット
- 電源コード 1 本または 2 本 (DSX モデルによって異なる)
- RJ-45 アダプタ ( コンソール ポートのループバック テスト用 )
- CD-ROM および保証書

入っていないものや破損したものがある場合は、すぐに Raritan 正規販売店までお問い合わせください。

### 別途用意するもの

箱に入っている装置に加えて、次のものがが必要です。

- Ethernet クロス ケーブル 1 本。DSX をブラウザベースのインターフェースから設定する場合に必要です。
- スル モデム ケーブル 1 本。DSX をコマンドライン インターフェースから設定する場合に必要です。これらのいずれかに加えて、次のものが必要となります。
- 管理デバイスを DSX に接続するための十分な長さのケーブル。接続する各デバイス タイプに必要なケーブルのタイプについては、Raritan の価格表をご覧ください。

### 工場出荷時の設定値

DSX 本体の工場出荷時のデフォルト設定は、次のようになっています。

設定	デフォルト
IP アドレス	192.168.0.192
サブネット マスク	255.255.255.0
ゲートウェイ	192.168.0.192
ユーザ名	admin ( すべて小文字 )
パスワード	raritan ( すべて小文字 )
本体の名前	DominionSX

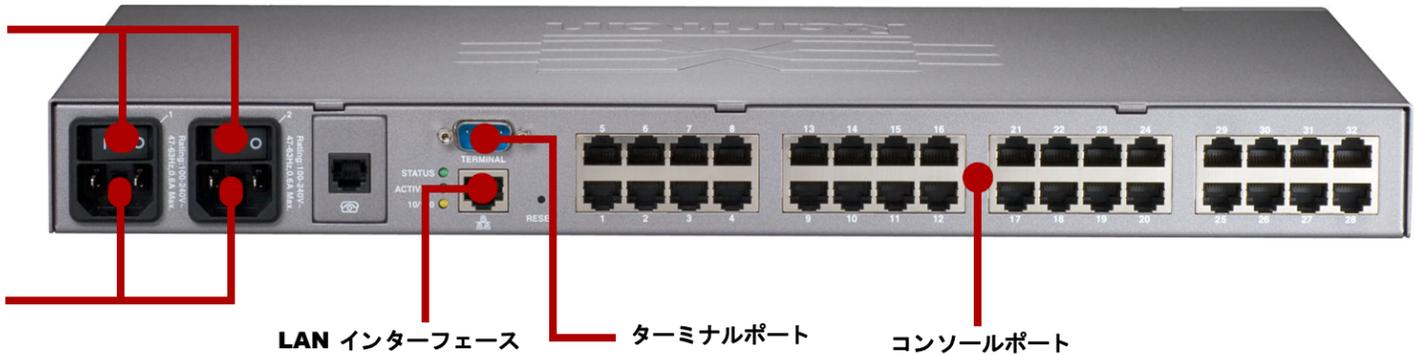
### ターゲット デバイスの接続

DSX には、さまざまなモデルがあります。上で示されているモデルには、2 つの電源コンセント、1 つの LAN インターフェース、32 のコンソール ポートが装備されています。ご使用のモデルによって装備内容は異なりますが、以下のインストールの説明には影響しません。

1. 決めた場所に DSX を設置します。ラック マウントが推奨されますが、必須ではありません。

電源オン/オフ  
スイッチ

電源コネクタ



LAN インターフェース

ターミナルポート

コンソールポート

2. 電源コードを DSX の電源コネクタと外部電源に接続します。DSX 本体に電源コネクタが 2 つある場合、2 つ目の電源コネクタはバックアップ電源に接続できます。
3. 電源スイッチをオンにして、DSX 本体の電源を入れます。DSX 本体で、ハードウェアおよびファームウェアのセルフテストが実行されます。ソフトウェアのブートシーケンスが開始し、完了すると緑色のライトが点灯します。
4. ターゲットサーバまたは他のシリアル管理デバイスを、DSX のコンソール ポートに接続します。
  - a. 標準 Cat5 Ethernet ケーブルの一方の端を、DSX のコンソール ポートの 1 つに接続します。
  - b. もう一方の端を、必要に応じて Raritan Nulling Serial Adapter (p/n ASCSDB9F, ASCSDB9M, ASCSDB25F, ASCSDB25M) に接続します。
  - c. アダプタを、ターゲット デバイスのコンソール ポートに接続します。

**重要な注記 :** Cisco や Sun デバイスの多くは、非標準 RJ-45 接続を使用するコンソール ポートが装備されています。ほとんどのデバイスは、「シリアル ロールオーバーケーブル」を使用して接続できます。これは、標準 Ethernet ケーブルでも Ethernet クロス ケーブルでもありません。Cisco および Sun のデバイスに同梱されていたロールオーバーケーブルをなくしてしまった場合は、Raritan から購入可能です (p/n CRLVR-15)。

### ブラウザを使用した DSX の設定

DSX は、Web ブラウザまたはコマンドライン インターフェース (CLI) を使用して設定できます。CLI を使用する場合は、このセクションをスキップして、次のセクションに直接進んでください。

1. Ethernet クロスケーブルを使用して、コンピュータを DSX の LAN インターフェースに接続します。DSX に LAN インターフェースが 2 つある場合は、LAN1 を使用します。
  2. コンピュータに、DSX のデフォルト IP アドレス (192.168.0.192) へのルートが設定されていることを確認します。コンソール ウィンドウを開き、route print コマンドを入力します。デフォルト IP アドレスがアクティブ ルート リストにない場合は、次の作業を行います。
    - a. Windows マシンでは、「ipconfig」と入力して表示される IP アドレスを書き留めます。その後、次のように入力します。  
route add 192.168.0.192 <installation computer IP address>
    - b. UNIX または Linux マシンでは、「ifconfig」と入力して表示される IP アドレスを書き留めます。その後、次のように入力します。  
route add 192.168.0.192 <installation computer IP address> -interface
    - c. 次を入力します。  
ping 192.168.0.192  
これにより、DSX 本体から応答があります。応答がない場合は、コンピュータと DSX の間の物理的な接続をチェックし、route add コマンドを正しく実行したことを確認してください。
3. ブラウザを開いて次の URL を入力します。  
http://192.168.0.192

4. ログイン ウィンドウが表示されたら、デフォルトのユーザ名 (admin) とパスワード (raritan) を入力します。すべて小文字を使用します。
5. デフォルトのパスワードの変更を求めるプロンプトが表示されます。パスワードを変更し、新しいパスワードを使用して再度ログインします。このパスワードを覚えておいてください。
6. [Setup (セットアップ)] タブをクリックし、[Network (ネットワーク)] をクリックします。[Configuration (設定)] ヘッダの下にネットワークが表示されます。
7. Network Basic Settings (ネットワーク基本設定) パネルで、DSX に IP アドレス、サブネットマスク、および LAN のゲートウェイ アドレスを設定します。DSX 本体に名前を付けて識別しやすいために (最大 64 文字。スペースや特殊文字は使用不可)、ドメインを入力することもできます (SMTP メッセージの送信に必要)。

Network Basic Settings

IP Address:

Subnet Mask:

Gateway IP Address:

Mode:

Domain:

Unit Name:

8. DSX はリブートされます。リブートが完了したら、新しいパスワードを使用して再度ログインします。

# Dominion SX クイック セットアップ ガイド ( 続き )

9. [Setup (セットアップ)] タブをクリックし、[Date/Time (日付と時刻)] をクリックします。[Configuration (設定)] ヘッダの下に Date/Time (日付と時刻) が表示されます。
  - a. **UTC Offset (UTC オフセット)** フィールドのドロップダウンメニューからタイムゾーンを選択します。
  - b. 日付と時刻は手動で入力するか、またはネットワークタイムプロトコル (NTP) サーバの IP アドレス (2 個まで) を入力することもできます。
  - c. 完了したら **[OK]** をクリックします。これで、DSX の時計が設定されました。
10. [Setup (セットアップ)] タブをクリックし、[Port Configuration (ポート設定)] をクリックします。ここで、ターゲットデバイスが接続されている各コンソールポートの設定を行うことができます。
  - a. ターゲットデバイスが接続されているポートの横にあるチェックボックスをオンにします。複数のターゲットデバイスをまったく同じ設定にする場合は、複数のポートを選択できます。
  - b. **[Edit (編集)]** をクリックしてポートの設定を表示し、次の情報を入力します。

設定	説明
Name (名前)	ポートに接続されているターゲットデバイスを識別するための名前
Application (アプリケーション)	ターゲットデバイスとの通信に使用するアプリケーション
Baud rate (ボーレート)	ターゲットデバイスの通信速度
Parity Bits (パリティビット)	パリティチェックに使用するビット数
Flow Control (フロー制御)	データ通信の管理に使用するフロー制御のタイプ
Emulation (エミュレーション)	ターゲットデバイスで使用するターミナル通信プロトコル

- c. **[OK]** をクリックし、他のポートに対しても同じ手順を繰り返します。

これで、Dominion SX が設定され、使用可能になりました。使い方の説明については、このクイックセットアップガイドの「次に行う作業」セクションを参照してください。

### CLI を使用した DSX の設定

1. コンピュータを DSX のターミナルポートに接続します。このポートは、2 つの電源コネクタと 2 つの LAN インターフェースが装備されたモデルを除く、すべてのモデルでは DB9 メスポートとなります。これらのモデルには、RJ-45 コネクタが搭載されています。
2. ターミナルエミュレーションプログラムを開き、DSX に接続します。通信パラメータが、9600 bps、パリティなし、8 データビット、ストップビット 1 に設定されていることを確認します。
3. ログインプロンプトが表示されたら、デフォルトのユーザ名 (**admin**) とパスワード (**raritan**) を入力します。すべて小文字を使用します。
4. デフォルトのパスワードの変更を求めるプロンプトが表示されます。パスワードを変更し、新しいパスワードを使用して再度ログインします。このパスワードを覚えておいてください。
5. プロンプトで「**config**」と入力し、次のプロンプトで「**network**」と入力します。
6. DSX に、IP アドレス、サブネットマスク、および LAN のゲートウェイアドレスを設定します。admin > config > network > プロンプトで、次のように入力します。  
interface enable true if lan1 ip <ip address> mask <subnet mask> gw <gateway ip address>
7. DSX をリポートするように求められます。「**yes**」と入力してリポートします。リポートが完了したら、新しいパスワードを使用して再度ログインします。
8. admin > プロンプトで「**config**」と入力し、次のプロンプトで「**network**」と入力します。
9. DSX 本体に名前を付けて識別しやすいようにしたり (最大 64 文字。スペースや特殊文字は使用不可)、ドメインを入力することもできます (SMTP メッセージの送信に必要)。次のように入力します。  
name unitname <DSX name> domain <domain name>
10. DSX をリポートするように求められます。「**yes**」と入力してリポートします。リポートが完了したら、再度ログインします。
11. admin > プロンプトで「**config**」と入力し、次のプロンプトで「**time**」と入力します。
12. admin > config > time > プロンプトで、DSX の日付と時刻を設定します。
  - a. 「**timezonelist**」と入力して、使用するタイムゾーンに対応する番号コードを見つけます。

- b. 次のように入力します。  
clock tz <timezone code> datetime <"time string">  
ここで、<timezone code> はタイムゾーンコードで、<"time string"> は "YYYY-MMDD HH:MM:SS" 形式 (引用符を含む。24 時間表記を使用) の現在の日付と時刻です。  
例:  
clock tz 9 datetime "2007-03-15 09:22:33"
12. 「**top**」と入力して、トップレベルのプロンプトに戻ります。次に、「**config**」と入力し、次のプロンプトで「**ports**」と入力します。ここで、ターゲットデバイスが接続されている各コンソールポートの設定を行うことができます。
    - a. 次のように入力します。  
config port <port number>  
この後ろに、次の表に示すパラメータが続きます。

パラメータ	説明
name <port name>	ポートに接続されているデバイスを識別するための名前
bps <baud rate>	デバイスの通信速度
parity <parity type>	パリティチェックに使用するビット数。none、odd、または even のいずれかを選択します。
flowcontrol <control type>	データ通信の管理に使用するフロー制御のタイプ。none、hw (ハードウェア)、または sw (X on/X off) のいずれかを選択します。
emulation <emulation type>	デバイスで使用するターミナル通信プロトコル。VT100、VT220、VT320、ANSI のいずれかを選択します。

- 例:  
config port 1 name cisco1700 bps 9600 parity odd flowcontrol none emulation vt100
- 注: 上のパラメータに加えて、次のパラメータも使用できます。  
[detect <true|false>] [escapemode <none|control>] [escapechar char] [exitstring <cmd[#delay];>] [dpaip ipaddress] [telnet port] [ssh port]

- b. デバイスが接続されているポートごとに手順を繰り返します。

注: ポートの範囲やワイルドカードのアスタリスク \* を使用して、config port \* bps 115200 のように指定できません。この場合、すべてのポートの通信速度が 115200 bps に設定されます。または、config port 3-7 bps 115200 のように指定することもできます。この場合、ポート 3 から 7 が 115200 bps に設定されます。

13. 完了したら、**top** をクリックしてトップレベルのプロンプトに戻ります。

これで、Dominion SX が設定され、使用可能になりました。使い方の説明については、このクイックセットアップガイドの「次に行う作業」セクションを参照してください。

### 次に行う作業

Dominion SX の設定はすべて終了し、ネットワークでの使用が可能なデバイスとなりました。次の作業行ってから、Dominion SX の使用を開始されることをお勧めします。

- **追加のユーザプロファイルおよびユーザグループの作成**  
DSX にはデフォルトのユーザプロファイルとユーザグループが出荷時に設定されていますが、追加のユーザプロファイルやユーザグループを作成すると便利です。これを行うと、個々のユーザに異なるレベルの権限およびポートアクセス権を設定できます。設定方法については、ユーザガイドの第 6 章を参照してください。
- **DSX の認証およびセキュリティ機能の拡張**  
DSX ではすべてのユーザがローカルで認証されますが、施設内に RADIUS、LDAP、または TACACS+ サーバがある場合は、リモート認証を利用することもできます。どちらの認証方法も有効な場合、リモート認証が優先されますが、リモート認証データベースでユーザが見つからなかった場合は、ローカルデータベースがバックアップとして使われます。  
IPTables ファイアウォールルールを作成して DSX へのアクセスを制限したり、SSL 暗号化を設定することができ、さらに Kerberos 保護を実装することもできます。設定方法については、ユーザガイドの第 7 章を参照してください。
- **Raritan Serial Console (RSC) の起動によるターゲットデバイスのリモート管理**  
Java 対応ブラウザから RSC を起動し、RSC を使用してリモートでターゲットデバイスを管理および制御できます。使用方法については、ユーザガイドの第 5 章を参照してください。